

明後日は卒業式です

学校教育目標 さわやかな若者を育む

学校報

小倉山通信

角館中学校【No.46】H26.3.7(金)発行

煌星学年125名の皆さん、卒業おめでとうございます。

煌星の輝きをいつまでも



東日本大震災から、もうすぐ3年です。

煌星学年の皆さんは、震災直後に入学し、中学校生活は、震災からの復興とともに始まりました。

震災直後は、人と人との絆の大切さを日本人が実感し共有し合い、苦しみをみんなで分かち合おうとする雰囲気がありました。

しかし、現在は、震災の恐怖やそれに対する備え、また、絆の意識さえも薄れてきているように感じられ、大変残念に思います。



厳しい時代になっていきます。これからは震災直後以上に、人と人のつながりが大切になってきます。煌星学年の皆さんは、今までは、周りの方々に支えられ、面倒をみてもらうことが多かったと思います。

明後日は、卒業という人生の節目です。

これからは周囲の方々を支えることを心がけ、自分自身を充実させてください。そして、晴れの日、曇りの日、そして雨の日も、遙か彼方で輝き続ける煌星のように、明るくさわやかに歩み続けてほしいと思います。



3年生の保護者の皆様、今まで、本校の教育活動に、ご支援、ご協力いただきましたことに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

明後日（9日）は、卒業式です。

全員、元気に卒業式に参加できるよう、健康管理をよろしくお願いします。

卒業式の歌でも、確かな伝統の引き継ぎを！

本校が自信をもって誇れることの一つに、合唱コンクールのレベルの高さがあります。

卒業式では、全校生徒で「校歌」「旅立ちの日に」、卒業生だけで「すすかけの道」を歌います。

3年生は「まとまってすばらしい力を発揮できる」という角中の伝統を、卒業式の歌を通して下級生に、最後の引き継ぎをしてください。そして、1・2年生も、3年生が安心して卒業できるように心を込めて歌って送ってほしいと思います。

3年生の門出にふさわしい卒業式の歌を期待しています。

『 校 歌 』

作詞：三好達治 作曲：諸井三郎



三好達治さん

三好さんは、日本を代表する詩人ですが、校歌の作詞をすることには消極的だったそうです。

それでも、本校の校歌を作詞していただいたのは、地域の多くの方々の熱意が伝わったからだと思います。

格調高い角館中学校校歌に誇りを持って、しっかりと歌ってほしいと思います。

『 すずかけの道 』

作詞：本田武久 作曲編曲：H a - j



本田武久さん

1期生の本田武久さんと2期生のH a - jさんが、作詞作曲をしてくださいました。

残念ながら本田さんは、一昨年お亡くなりになりましたが、本校の象徴でもある「すすかけの道」の名前

がついたこの歌を、角中生が、いつまでも歌い継いでいかなければならないと思います。

啓翁桜(けいおうざくら)を、卒業式用に御寄贈いただきます。

私は初めて聞きましたが、啓翁桜をご存知でしょうか。

先日、仙北市農林課から、今栽培に力を入れ始めている啓翁桜を、卒業式用に寄贈したいというお話がありました。

啓翁桜は、昭和5年、佐賀県久留米市の良永啓太郎さんが中国系のミザクラを台木とし、ヒガンザクラの枝変わりとして誕生させ、啓太郎さんの一字をとって啓翁桜と名付けられました。

啓翁桜は、枝の伸びがよく、枝を切り込んでも弱らないことから切枝用に適しているそうです。

卒業式が楽しみです。

